

平成20年度 再評価実施事業（国庫補助事業）調査

		事業所管部局	国土交通省都市・地域整備局 公園緑地・景観課	
計画事業名	都市計画緑地事業 等々力緑地		事業担当局	環境局
事業採択年度	昭和32年度		認可・承認等年度	昭和16年度 都市計画決定
経過年数	52年		該当条項	再評価実施後5年経過
完了予定年度	平成24年		関連事業名	等々力水処理センター建設事業
事業の目的・概要・課題	事業の目的 川崎市のほぼ中央、多摩川沿いに位置し、各種競技大会や市民スポーツの拠点となる運動施設や市民ミュージアム等を備えた教養施設を配した総合公園となっており、市民レクリエーション等に寄与している。また、広域避難場所となっていることから、防災機能を向上させる整備を進めるとともに、緑とオープンスペース等の整備を行う。		事業採択時の背景及び契機 昭和16年に首都防衛の防空緑地のひとつとして、都市計画決定した。都市公園法の制定と共に、昭和32年から用地買収を開始し、同時に施設整備を行って以来、総合公園として供用しながら、都市における緑とオープンスペースの中核をなす施設として、安全性の確保、良好な景観を備えた地域環境の形成等を目的とし、整備を行っている。	
	事業内容 運動施設を主体に緑陰、防災公園としての整備を図る。		事業採択（着工、未着工）から基準年を経過している主な理由 事業認可区域内において、重複の都市計画事業である下水道事業（H24年度予定）の進捗状況の遅れによる公園事業の遅延。	
	事業費規模（単位：百万円） 既事業費 (1)事業費 60,080 59,248（残事業費 832） (2)一般財源 53,963 53,345 (3)特定財源 6,117 5,903 （国庫補助金）		現状の課題 ・事業認可区域内の下水道事業の速やかな進捗。 ・最寄り駅である小杉駅周辺地区の急速な開発にともない、公園機能の拡充、施設の再編などの要求が高まっており、委員会を立ち上げ本年より3年間かけ検討する予定である。 ・ネーミングライツ等施設の運用などに課題がある。	

再評価の視点	事業の必要性 等々力緑地については、最寄り駅である小杉駅周辺地区において、急速に開発が進む中、この地区の人口の急増等の課題があり、この地区計画の中で「緑の核」として位置づけて整備することとしている。今後の整備の内容として、池周辺の自然的な空間のバリアフリー化をはじめとした園路等の整備を行い、利用対象者の拡大や各施設を緑の林床で結ぶことにより利用の拡大を図る。また、下水道施設上部への親水施設等の整備を行うことにより、公園と多摩川の一体的な利用が可能となるとともに災害時の多摩川からの避難経路の形成などに寄与するものと考えられる。
	代替案の可能性 既に用地が確保されており、多摩川とも隣接して一体的な利用を展開ができる、また、多摩川との連続性を模した親水施設整備の要望もあり下水道処理水の活用することも可能である。また、池周辺等の自然的な空間についても、都市計画当初より在り、市民に親しまれているところとなっていることから、代替案は考えにくい。
	費用対効果B/Cの説明（事業の効果等） 改訂第2版大規模公園費用対効果分析手法マニュアル（H19.6）に沿って算出をすると、4.62となり投入費用に対し効果があると評価できる数値となっている。

対応方針案	対応方針案 継続 ・継続（見直しの上）・中止・休止
	対応方針案の考え方 川崎市内でも人口が増加している地区であり（川崎市全体1.05倍、中原区で1.07倍）、特に当該緑地を利用可能な小杉地区の人口が増えていることから、多摩川までのアクセス等を整備することにより、既存の施設利用者に加え、公園利用者の増加に即した効果が期待できる。また、既存施設が野球場や競技場など利用が限定された施設が多いことから、市民が広く利用できる施設整備を行い、レクリエーション、散策休養等の利用拡大に効果があることなどから事業を継続すべきであると判断する。